

体外受精実施者へのインフォームドコンセント用資料作成

～AMH および年齢によって成功率（出生率）はどのくらい変わるのか？～

医療法人社団徐クリニック ART センター

清須知栄子 伊藤真理 峰千尋 中塚愛 徐東舜

**【緒言・目的】**体外受精を実施する際に、インフォームドコンセントの資料として体外受精成績(出生率)を患者に伝える必要がある。そこで体外受精成績の説明資料として、当院での AMH および年齢別での採卵回数ごとの出生率を調べ、その累積出生率のグラフを作成したので報告する。

**【対象】**2010～2013 年の体外受精初回実施者 694 症例のうち、タイミング及び AIH にて出生した 18 症例を除き、AMH 値を測定した 631 症例を対象とした。AMH 値 (ng/mL) 別に 0.5 未満:86 症例、0.5～1.0 未満:94 症例、1.0～3.0 未満:250 症例、3.0 以上:201 症例の 4 群に分類した。また、年齢別に～34 歳:234 症例、35～37 歳:163 症例、38～39 歳:99 症例、40～42 歳:97 症例、43 歳～:38 症例の 5 群に分類した。

**【方法】**対象の採卵で得られた移植胚全てを用いて出生の有無を調べ(新鮮胚移植+融解胚移植)、採卵 4 回目までの累積出生率を AMH 値および年齢別に調べ検討した。また、ドロップアウト(治療中断)した症例がその回ごとの出生率と同程度で出生に至ったとみなした。

**【結果】**採卵 4 回目における累積出生率は、AMH0.5 未満の年齢別では、～34 歳:60.7%、35～37 歳:30.3%、38～39 歳:11.1%、40～42 歳:12.3%、43 歳以上:0.0%。AMH0.5～1.0 未満では、～34 歳:78.6%、35～37 歳:67.2%、38～39 歳:45.3%、40～42 歳:29.5%、43 歳以上:6.3%。AMH1.0～3.0 未満では、～34 歳:89.3%、35～37 歳:72.9%、38～39 歳:46.0%、40～42 歳:34.4%、43 歳以上:16.7%。AMH3.0 以上では、～34 歳:92.7%、35～37 歳:76.8%、38～39 歳:70.7%、40～42 歳:47.6%、43 歳以上:0.0%となった。

**【結語】**以上の結果より AMH 値と年齢が出生率に深く関与することが明確となり、これらの結果をインフォームドコンセントの資料とするのは適当と考える。

それぞれの AMH 値ごとでは、年齢の上昇と共に出生率は低下している。

AMH 値が低下するにつれ、年齢ごとの出生率も低下している。

AMH 値 0.5 未満でも年齢が 35 歳未満であれば約 60%の出生率がある。

AMH 値 3.0 以上では年齢が 40～42 歳でも出生率は 50%近くの出生率を認めた。